2　問題行動の状況とその背景

(1)　家庭環境

構成	職業等	生活の状況	N子への関心
父　親	会 社 員	12月に入院	放任状態
母　親	会 社 員	通勤と看護	甘い態度
実　姉	高校３年	交際で多忙	無関心状態
N　子（本人）	中学３年	離れの部屋に一人で起居し淋しがる。K男に会い怠学	

父は，入院するまで毎夜遅く帰宅した。母は６時過ぎに帰宅し，姉と一緒に別の部屋にいた。

父が入院してからの母は，病院に泊ることも多く，姉も遅かったので，N子は一人だけの自由な生活ができた。反面愛情を感じない冷たい日常生活の中で，K男のつけ入るすきが生じた。

(2)　地域の環境

N子の家の近くだけではないが，酒類・タバコ等の自販機が夜中も自由に開放されており，少年にとっては健全な道をめざしながらも心にすきまが生じ易く，障害の多い環境である。

また，N子の夜間外出の事実を知ったK教諭がN子の家を訪問した時，たまたまN子が帰宅するところへ出会った。その時隣人たちは逃げ回るN子と追いかける教師を横目で見つめていた。つまり，人間関係ができていなかったのである。

(3)　本人の状況　　（N子の学習成績）

項目＼学年＼教科		国	社	数	理	英	音	美	保体	技家
学年別評定	1　年	1	1	1	1	1	2	2	2	2
	2　年	2	1	1	1	2	1	2	2	2
	3　年	1	1	1	1	1	1	1	1	1
知　能	1　年	教研式知能検査SS（31）								

学力が下位にあるN子にとって，４教科は，楽しさを味わえる雰囲気であった。しかし，２年の２学期は，生活の変化や進路への心配もあって，成績に多少の変化が見られた。３年になってからは，N子の心身の発達，家庭の環境，交友関係の失敗から，成績は最低であった。

学習への意欲をなくしたN子は，交遊関係を何よりも大切にした。自分の将来への不安や淋しさから，愛情を求めながらも大人への不信感がN子の生活を乱していた。

(4)　友人関係　　（昭和60年１月）

友人	関係	問　題　傾　向
S子	親　友	非行歴有す。N子の面倒みる。
4人	仲　間	仲間意識を持ち，ついて歩く。
K男	交遊者	高１中退，無職，N子と交際

S子は，２年の１学期に転校してきたが，親分肌で体格もよく，喫煙常習者であった。N子を可愛がり，相談相手となってリードした。

N子の生活は，S子によって崩れはじめ，S子が進路の心配から立ち直ってもN子は一人で突っ走る結果となった。４人の女友達は非行に走ることもなく，ただついて歩くグループであった。孤立したN子は，ますますK男との関係を深めることになり，K男も自制心を失っていた。

3　指導の概要

(1)　指導

①　生徒指導の体制

生徒指導委員会において，生徒指導上の問題の対策を協議する。その協議に際し，上司の指導助言を得て実践指導のための指導方針を確立する。確立された指導方針は，校内における組織を通して実践された。

特に，家庭との連携については学級担任を中心として，問題の性質によっては学年の係が援助する。それでも困難な場合は，生徒指導主事が学級担任・係・学年主任等の要請に応じて，直接に指導活動を行う。

生徒指導主事は，上司の指導助言を十分に生かしながら，特に家庭訪問や教育相談においては，関係者との連携に留意する。

②　指導方針

ア　全職員の共通理解と連携の強化

○　N子に関する情報の即時交換と協力

イ　指導上の留意事項の徹底

○　N子の学級担任を援助する。（進路指導で多忙な時期である。）

○　N子の友人への働きかけを強める。（N子が大切にされている心情を伝える。）

○　N子とK男の家庭を訪問し，現在の二